

若い世代・女性ワークショップ実施結果について

■実施概要

1. 日時

2026年3月6日（金）19：00～20：30

2. 会場

尾鷲市役所庁舎 会議室

3. 目的

日頃市内で生活を送る中での困りごと、不満について洗い出しつつ、まちの将来像である「住みたいまち 住み続けたいまち おわせ」を実現するための取組についてアイデア創出を行うことで、今後における尾鷲市のまちづくりにおいて有効となりうるポイントを抽出すること、ひいては、総合計画の後期計画策定における基礎資料とする。

4. 参加者

尾鷲市内で働く方々 6名

■若い世代・女性ワークショップの内容

| 時間 | 内容 |
|-------------|---|
| 19：00～19：10 | ■オリエンテーション ・主催者挨拶、趣旨説明 ・コーディネータの紹介 |
| 19：10～19：20 | ■「尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査結果」の概観 ・調査結果の一部を参加者間で共有 |
| 19：20～19：45 | ■グループワーク① 現在生活する中での困りごと、不満について |
| 19：45～19：55 | ■アイデア創出のためのポイントについて ・コーディネータによる説明と小演習 |
| 19：55～20：20 | ■グループワーク② まちの将来像である「住みたいまち 住み続けたいまち おわせ」を実現するための取組について |
| 20：20～20：30 | ■作成したアウトプットの確認 ■まとめ |

■若い世代・女性ワークショップの風景

今回のワークショップでは、これまでの経験や職業が異なる方同士で、明るい雰囲気のもと、数多くの意見が積極的に出されました。

まちづくりに関するアンケート調査結果やアイデア創出のポイントを確認しました。



グループワークの準備として、個人で取り組む時間も設けられました。



アイデアを出し合うグループワークの風景。



最後にポーズをとって記念撮影を行いました。



■ワークショップで作成されたアウトプットについて

■生活の利便性や潤い

- ・スーパーの価格が高い（特に野菜）。
- ・家賃が高い。
- ・ガス料金が高い。
- ・ガソリンが高い。
- ・物価が高めであるのに対し、給与水準が低いと感じる。
- ・夜に開いている店が少ない。
- ・コンビニエンスストアの種類が限られている。
- ・外食チェーンが圧倒的に少ない。
- ・若者向けの服屋さんがいない
- ・靴屋さんがいない。
- ・服屋さんがいない。
- ・カラオケがない。
- ・遊ぶ所が少ない。
- ・休日を楽しめる場所がないと思える。
- ・ネイルとかマツエクとかエステとかできる所が少ない。
- ・家族で行けるレストランがあると便利

- ・ 買物しやすい生活圏の形成
- ・ 生活コストを軽減させるような暮らしやすさ向上

■誰もが安全・安心に暮らせる

- ・ 動物がいっぱい出る。猿とか飛び出して当たると危ない。
- ・ 暗いし見にくい。
- ・ 街灯が少ないので、夜に街を歩くのが怖いと感じる。
- ・ 防犯灯、街灯をたくさんつける。

いつでも、誰でも、安心して過ごせるように

■医療の充実、子育て支援の充実

- ・ 病院に関する不安がある（かかりたい所がない）。
- ・ 病院の機能が不十分で市外へ行く必要がある。
- ・ 気軽にかかりつける婦人科がない。
- ・ 子どもを産む際の設備を充実させる。
- ・ （施設に）多目的トイレや授乳室があるとよい。
- ・ 産婦人科を設ける。

- ・ 通院負担を減らすことにつながる物理的・心理的な対策
- ・ 医療に関する不安の解消
- ・ 安心して子どもを産み育てることができるという環境整備

■移動のしやすさの向上（交通の充実）

- ・ 信号が少ない。
- ・ 道が細い。坂道も多い。
- ・ 電車の本数が少ない。
- ・ 交通の便が悪い→防災道路を2車線にしてほしい。
- ・ 交通の便が悪いので、なかなか気軽にどこかに行けない。
- ・ 大学とか学校が遠い所にしかない。
- ・ 自動運転のバスで輪内も尾鷲内どこでも行けるようにする（高齢者にとってタクシーは高い？）。

- ・ 道路環境の快適性向上
- ・ 公共交通機関の利便性強化
- ・ 高齢者にやさしい移動手段の確保

■若者・交流・居場所づくり

- ・ 若者が集まる場所が少ない。
- ・ 雨の時に遊ぶ場所が少ない。
- ・ 男女が出会う場所や機会が圧倒的に少ない。
- ・ 若者向け施設を充実させる：空き家を活用？
- ・ 駅近く（学校近く？）で、子供（10代）が集まれる場所をつくる。（例：ワーキングカフェとか）
- ・ シェアハウスで若者の集まる場所をつくる。
- ・ スナックを昼のカラオケ屋さんとして活かしていくようにする。
- ・ スナックのおばあちゃんと話しやすい雰囲気を活かす。
- ・ 60歳でもまだ若手の街 尾鷲（いつまでも活躍できる街にする）。

- ・ いつまでも現役でいられる多世代共生の推進
- ・ 空き家を活かした交流空間づくり
- ・ 若者が集いやすい居場所づくり

■雇用の創出、新たな働き方の提案

- ・ 人手不足なのに就職先が少ない
- ・ コワーキングスペースやテレワークをする場所を充実させる：空き家を活用？
- ・ ワークেশンを漁業においてもっと活発にする。
- ・ 尾鷲の人は地元が大好きな人が多い！若者が帰ってこられるような雇用づくり！！

職場を離れた働き方を地方がサポート（滞在型就業の提案・発信）

■地域資源を活かした体験型・滞在型の観光振興

- ・ 避暑地が少ない。
- ・ 和式トイレが多いので、行きたい店や場所に行きづらい。
- ・ 街灯が少なく暗い。→暗くても星がキレイに見える町として訴求。
- ・ 宿泊施設を増やす。
- ・ 民泊が増える→街が明るくなる。
- ・ 全国的に見たら珍しい「スナック」を更に推していく。
- ・ 自然の景観（田畑も含めて）は写真映えするので活かす。
- ・ 山・川・海：自然での遊び方を深掘る。
- ・ 尾鷲は、昔の家など、残っている所が多いので写真映えできるように整備してみてもいい？（昔ながらの産屋などが、バズっているため）
- ・ 尾鷲には、生節、くき漬けなど、見たことないけど美味しいものがたくさん！
- ・ これらをPRしてインフルエンサーや有名人がASMRなどをして、興味を持ってもらえるかも！
- ・ 釣りマップ作成：釣りをもっと楽しめるような取組を行う。
- ・ 尾鷲にルーツがあるファッションデザイナーのファッションショーを行う。

- ・ 自然資源を活かした体験型・滞在型観光の推進
- ・ 「映え」の観点からの魅力発掘と発信
- ・ 地域ならではの食、地域にゆかりのある要素の発掘とブランド化

【アウトプットの表記について】

- ・ 赤色の文字：生活する中での困りごと、不満として出された項目
- ・ 青色の文字：「住みたいまち 住み続けたいまち おわせ」を実現するための取組として出された項目
- ・ 黒色の文字：赤字文字、青色文字を合せて整理したうえでつけた分類名
- ・ グリーン網掛けの文字：分類における項目から抽出したポイント

■総括

今回のワークショップでは、日頃の生活における困りごとや不満を踏まえつつ、尾鷲市の将来像の実現に向けた取組という観点から、今後のまちづくりにおいて有効となりうるポイントが抽出されました。

地域内に目を向けた内容としては、生活の利便性や移動のしやすさなど、不便さを感じにくい生活に関する意見が多く見られました。また、潤いのある生活の実現という視点も示されました。さらに、安全・安心の確保や医療の充実、子育て支援など、不安なく暮らせる環境づくりの重要性も指摘されました。

地域外に目を向けた内容としては、観光振興に関する意見が多く挙げられました。その方向性としては、地域資源を活かした「体験型」や「滞在型」が重要なキーワードとして捉えられます。加えて、「映え」といった視覚的魅力的発信も、現代においては重要なポイントであることが確認されました。

地域内外の双方に関わる内容としては、人と人との交流機会を創出する仕組みづくりの重要性が挙げられました。また、長く現役として活躍できる地域環境の整備の必要性についても意見が出されました。そのためには、地域内における雇用の創出・産業の活性化を図るとともに、テレワークやワーケーションといった多様な働き方を活かし、地域外からの滞在・関係人口の創出を促進することが重要であるという構図が見えてきます。これにより、（地域外の方にとって）複数拠点での生活を通じた視野の拡大や人的ネットワークの拡張が期待されます。